

第56回総会・講演会を開催

はじめに

技術士会北海道支部会員の皆様におかれましては、ご活躍のことと拝察いたします。

年度末が近づき、1年で一番忙しい時期を過ごしておられる方が多いと思います。

昨年12月に開催された国連気候変動枠組み条約締約国会議（COP13）や、本年、洞爺湖での開催が予定されるサミットでは環境問題が主要な議題となるなど、地球温暖化を主とする環境への関心が高まっており、科学技術に関与する我々技術士も、環境対策に何が出来るかを真剣に考えなければならない時期に来ていると思います。

さて、今回の活動レポートでは、昨年12月に開催した総会と同時開催の講演会について報告致します。

1. 講演会

CPD（継続教育）として講演会を行いました。

演題：北海道の街づくりを考える

～僕もおうちも景色のひとつ～

講師：帯広土木現業所長 紺野 寛 技術士

講師の紺野技術士は、北海道庁に入庁後、多くの駅周辺や土地区画整理事業に関わっておられ、その経験を基に講演をしていただきました。

講演要旨

1) 都市形成の歴史

北海道の都市形成の歴史は、開拓史が設置された1869年（明治2年）に始まり、1880年（明治13年）の鉄道開通で石炭搬路が確定し急速に発展した。

都市計画法は、1888年（明治21年）の東京市区改正条例公布が最初で、1919年（大正8年）の都市計画法施行を経て1968年（昭和43年）に全面改定された。

2) 都市計画の施策

これまでの社会は、戦後のベビーブームなど人口増による都市化社会で膨張型であったことから、規制に重点がおかれてきたが、これからの社会は、少子高齢化による収縮型となることから、コンパクトなまちづくりが重要となる。

今日の都市は、モータリゼーションの進展に伴い、大規模集客施設が郊外に移転し中心市街地の空洞化と衰退が問題となっており、地域全体の取り組みとしてコンパクトなまちづくりが求められている。

3) まちづくりへの取組

道は、豊かで安心して暮らせる活力ある地域社会の形成をめざし、総合的な少子化対策、安全で安心な地域づくり、誰もが社会参加できる地域社会、まちなか居住、高齢者が生き生きと豊かに暮らせる地域コミュニティの再生、循環型社会などを推進するまちづくりに取り組んでいる。

4) まちづくりの事例

講師の紺野技術士がたずさわったのはまちづくりには、以下のようなものがある。

釧路市米町地区：細道路が入り組む住宅密集地を安全なまちに再生

西帯広地区：184 haの大規模住宅地の造成

美瑛駅前地区：駅前商店街の再整備

苫小牧沼ノ端駅周辺：街路及び区画道路の整備。

自動車産業の就業者が多く

居住する住宅地を造成

北広島駅周辺：南北を結ぶ32mの歩行者専用道

路により、駅の南北分断を解消

帯広駅周辺：6.2km区間の鉄道高架により南北

分断を解消

帯広ホコテン：オープンカフェイベントで街中に

人をよび込み、中心市街地の活性化

このうち美瑛駅前地区は、いわゆるシャッター通りとなっていた1km区間の商店街(130戸)について、十勝岳連峰をイメージした建物の色調や看板統一とラベンダー植樹など街の「遺伝子」と「奥行き」を意識し、面的に整備を行うことで、美瑛の丘に訪れる観光客を商店街に呼び込む計画とした。事業完了後、訪れる観光客が増加し商店の売上高が1.5倍になるなど、結果は十分に現れていると考えられる。

5) まちづくりは人づくり

まちづくりのキーワードは、「自分の家や建物、その色も景観のひとつ」であり、一般の人にも責任がある。このことから、まちづくりには主人公の住民と行政の共同作業が重要である。その上で、情報、知識、技術を提供する専門家・コンサルタントの活用も不可欠であり、これらのひとつづくりが大切である。



紺野講師

2. 第56回総会

日時：平成19年11月30日 午後6時

場所：北海道ホテル

出席者：43名(技術士19名、技術士補24名)

当会では、釧路と帯広で年2回総会を行っており、今年度も例年同様、秋の総会を帯広において開催しました。

冒頭、星山会長は、今年度から筆記試験の合格者のみ経験論文を提出することとなり、一部変更となった技術士試験制度についてふれ、今回の総会出席者の中にも12月に始まる口頭試験に向けて勉強に励んでいる方おられると思いますので、合格に向け頑張ってくださいと挨拶しました。

総会では、会の運営費と会則の一部変更について説明を行い、出席者の拍手で承認をいただきました。

また、現在環境コンサルタント(株)の濱口技術士補が担当して作業を進めている、技術士会ホームページのコンテンツについても案を紹介しました。

総会后、前副会長の佐藤豊藏技術士の乾杯の音頭で情報交換会に移りました。

おわりに

今回の講演は、紺野講師が経験したまちづくりについて、大変わかりやすく話されました。

乾杯の音頭をお願いした佐藤技術士は、当技術士会の発足当時から在籍されておられますが、多くの若い技術士が出席し、講演会と総会が開催されるような会に発展したことは大変うれしく、また、有意義な継続教育だったと挨拶されました。

近年、継続教育の要望が高まっており、当会においてもCPDの機会を提供するよう努力していきたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

最後になりましたが、皆様のご健勝とご活躍をお祈りし、道東技術士会の報告とさせていただきます。

(文責：道東技術士会幹事 上野 博司)